

2001

春期号



佐賀 会報誌

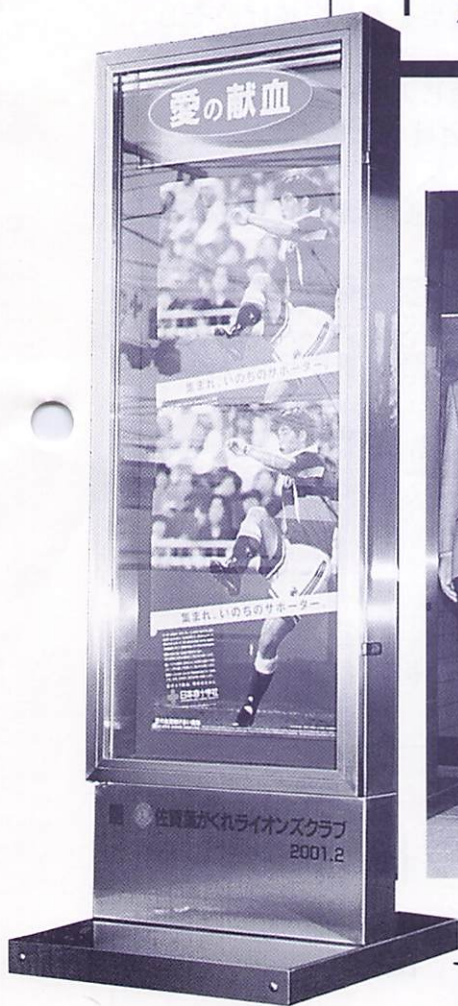
# 葉がくれ LC

337-C地区 ガバナー L小鳥居 衷 提言

「二十一世紀を拓く明るい愛の奉仕」

第31代会長 L龍野 敏郎 スローガン

「友愛と和の奉仕」



血液センターへパネル贈呈

'01年3月16日(金)

## We Serve

# ZCを拜命して、9クラブにお礼



337-C地区 1R.2Z. 佐賀はがくれLC  
Z.C L 本 田 茂 昭

2000年7月より337-C地区 1R.2Z.Z.Cを拜命、地区ガバナーの運営方針とプログラムに沿って各クラブの諸計画の把握と実施計画のチェックを行った。早速7月～10月の間9クラブの公式訪問を済ませ、3回に亘るリジョン会議諮問会を終了。充実した内容をキャビネットに報告することができた。

今期Z.Cとしての方針と目標を設定し、会員増強についての施策を提案した。

## 新年度の方針と目標

### 地域社会との連帯感と独創的な活動

- ① 時流に沿った奉仕活動
- ② 地域との関わりを重視
- ③ クラブ内に若い血の導入
- ④ 会員増強、出席率の向上と退会防止

### 会員増強施策

- ① 会費納入、出席厳守、奉仕活動の3原則の徹底（研修会 等）
- ② 若い人々にLCの精神についての理解を深め、入会促進を計る。
- ③ 定年後（悠々自適）な人生をエンジョイしている者、人生後半を奉仕に捧げ、そして、数多くの友人と接し語り合いの場が作れることを強調
- ④ 他の地域より勧誘（知人、親戚、商売、営業拠点 等）を通じ入会を計る。
- ⑤ 自他クラブの過去退会会員の掘り起こし（名簿作成 各々会員でアタック）  
尚、その折 物故会員先の二世に入会を薦める。
- ⑥ 数は力なりの原則（財源と奉仕力）を基本方針に会員理事を中心に理事会で徹底した議論を理事メンバーの積極的なスポンサー活動が重要。
- ⑦ 退会防止はスリーピングや例会欠席会員への対処の仕方で行う。  
特に新会員には、歴代会長や先輩による研修会（年2～3回）開く。  
LCの基本理念とコミュニケーションの場としてクラブの内容を理解させる旨の会合を積極的に開催する。
- ⑧ 趣味を活かし、多彩な部会活動の実施（例 ゴルフ部会、魚釣、囲碁、マージャン、カラオケ、ダンス、俳句 等）
- ⑨ 他クラブの優良資料を取り寄せ、改革し実行に移す。  
クラブ内の刺激を計る。
- ⑩ 女性会員への勧誘（積極的にクラブ会員によるフォロー）
- ⑪ ドロップ防止の考え方（会員ドロップは執行部の責任と考える。例会や奉仕活動欠席のLにはスポンサーから責任をもって参加する旨のフォローを担当する。

日本料理城下

三根 勝博

佐賀市水ヶ江1-8-1  
TEL0952-26-5333

(有) 雅叙苑

伊東多美子

神埼郡神埼町大字尾崎362-1  
TEL0952-23-6868

ギフト・サンジョー

山口 隆

佐賀市呉服元町11-20  
TEL0952-26-6780



会費未納についてもスポンサーに対し厳重に申入れ、期末にかからないよう早めに回収促進する。(幹事の執務)

特に会員増強とドロップ防止に於ては各クラブの会長をはじめ執行部の努力に依り、前期末数405名、新入会員数48名、退会数26名。年次大会前締切りの2月末数427名で期末より22名の純増であった。因に337-C地区の2月末会員数をみると、前期末3,620名2月末3,642名で22名の純増実績であり、1 R.2 Z.が地区の数をカバーしたことになる。

このように、2 Zの活動はL.C I F、献血運動、地域との密着、クラブ内に新しい会員の友人が増えた。これからも地域社会に対する奉仕の輪が益々広がることを念じ2 Z 9クラブへのお礼の言葉にしたい。

## 2000～2001年度 冬期 Y E 派遣学生報告

Y E 委員長 L 井 上 一 義



今般、複合地区冬期 Y E 派遣事業の337C 地区派遣学生の一員として、2000年12月から2001年1月、世紀を跨いで「マレーシア」を訪れ、彼の地ライオン家庭でのホームステイを通じ、各種行事に参加し、様々な見聞と貴重な体験を経て、この程無事帰還したL 香上のご子息智道君の帰国報告の一文を掲載いたします。

聞けば、初めての海外への渡航経験だったとの事で、肌身で他国の実情に触れ、異文化に接した彼。その彼にとって、必ずや今日の経験が随所に活かされ、将来の糧・成果となる事を信じます。日本の青年として、積極的に国内外の多くの人々と接し、交流の輪を広げ、自らをより良い国際関係構築の為に拘わって行くこと。そして当クラブの Y E ユースやレオ育成にも寄与して貰う事等々、大いに期待して止みません。

### かけがえのない思い出

Y E 派遣学生 香上 智道



ファーストホストファミリーとチャイニーズレストランで  
左から15才のケン、ママさん、パパさん、16才のダンカン、もう一人は福岡の Y E 生

12月17日から1月10日までの25日間、私は生まれて初めて海外での生活を送った。20世紀から21世紀になる瞬間をマレーシアで迎えたことになる。出発前は、特に緊張もせず、特にはしゃいだりもせず、ただ漠然と、外国とはどのようなものだろう、何かしら自分にプラスになるものを見つけて来よう、という気持ちだった。

結論からいえば、この25日間は、私の想像以上に充実した、意味のある体験となった。

ここでは、日本とマレーシアの文化の違いに科学技術の発達の違いについて考えてみる。私が最も印象

<p>(株)西日本新聞広告社</p> <p>江 瀧 元 彦</p> <p>佐賀市嘉瀬町萩野3067-7 TEL0952-29-4155</p>	<p>(有) 吉 清</p> <p>清 水 勝</p> <p>佐賀市兵庫南2-15-20 TEL0952-28-4120</p>	<p>赤帽佐賀県軽自動車運送協同組合</p> <p>小 野 好 信</p> <p>佐賀市鍋島3-2-40 TEL0952-31-2185</p>
---	--	--



深かったのは、時間に対する観念の違いである。マレーシアでは、時計はあるにはあるが、ないに等しいくらい時間にルーズであった。特に食事の時間がひどい、朝食か昼食か夕食か分からない時間に平気で食事をする。私は常に食事した時間をチェックしていたが、ほとんどバラバラであった。あと食事に関してもう一つ述べれば、外食が非常に多いということである。これは明らかに日本とは違う。しかし、聞いた話では、材料を買って料理するより、外で食べた方が、お金がかからないようで、日本は全く逆だから、明らかに文化の違いだと思った。

次に、マレーシアが日本よりも発達していると思う点を二つ述べる。一つは道路の構造である。日本にはない交差点のつくりや、広い道路での一方通行、あちらでは、車の運転が荒い分、考慮して道路が作られていると感心した。もう一つは、DVD・音響機器の発達である。日本でDVDを持っている家庭は、まだ少数だと思うが、あちらでは、普通にどこの家庭にもあった。あとスピーカーの音の良さも、日本の一般家庭では考えられないもので、路上で流れている音も同様であった。

もう一つ大事なことで、パソコンの普及が日本より進んでいることで、15歳の子供も手慣れたようにそれを扱っていた。

どの国の文化にも、日本人としての価値観ではあるが、良い面、悪い面があると思う。つまり、この国が上で、この国が下だという判断は、個人的見解に過ぎないだろう。しかし、それぞれの国の良い面を理解し、異なった面を理解することにより、国全体が良いものになっていけば理想的なことだと私は思う。

最後に、この1ヵ月での一番の収穫は、友達である。マレーシアでお世話になった家族のみんなや、

レオクラブの人達はもちろん、日本全国に良い仲間が出来たことである。こういう機会を与えて下さった皆様に感謝すると共に、この経験を心の中で暖め、ここで出会った友達を大切に、国際理解、日本の心の発展に努めていきたいと思う。そして、機会あればもう一度、あの夢のような1ヵ月を過ごした国に出かけたいと思う。



セカンドホストファミリーとレストランで

上列左からジーイー、ハオ、シェン



福岡グループの皆と帰国した直後。福岡空港にて

(有)ケンショーハウス工業

古賀 聡

佐賀市高木瀬町大字長瀬429  
TEL0952-33-7555

発行日 平成13年4月13日

編集 PR委員会

L 石井正人、L 宮島直輔、L 藪内郁夫

発行 佐賀葉がくれライオンズクラブ

〒840-0831 佐賀市松原商工会館

TEL0952-26-6198

FAX 26-0950